

5年ぶり春の会津駒ヶ岳

'92.4.4 岩 毅 岩 淳子

4/4 晴/曇 本来は今日は火打山に行く予定にしていたが、気圧の谷が西から近づいている為、その影響が最も遅れる会津に変更することにした。ちょっと節操の無い変更ではあったが、引越で3か月も山に入れなかったの、とにかく行ける所ならどこでも良い、を優先した。5年前の同じ日に陶山さんらとこの山を登っており、期せずして、全くの同日に再訪することとなった。

雪の状態は5年前と殆ど同じであった。下の沢の林道は1050mの堰堤まで車が入れた。林道から夏道に入る階段は完全に露出しており、1200m付近までシートラーゲンを強いられる。1370mの共同アンテナからは快適なシール登山となった。5年前と違うのは体力だった。1650mあたりからへばりが見えてくる。

結局、5年前より45分も余計にかかって山頂にたどりつく。大戸沢尾根を降りようかな、とも思ったが、時間も遅いし雪質も芳しくないので相棒のことも考えて登路を下る。雪質がいいのは頂上部だけで尾根上は重い湿った雪、それでも、昨年2月に滑ったブナの林間ルートへ1630m付近から入り1050mの堰堤まで滑り込む。それなりのダウンヒルが楽しめた。

この日はこのあと民宿に泊まり、翌日、帰京した。翌日は予報通り雨だった。やはり、この山は春もいいが、厳冬期の方がなお面白い。

(タイム)滝沢橋(930m)9:25--堰堤(1050m)9:50---アンテナ(1370m)11:00--駒ヶ岳
(2132.4m)13:50, 14:10~~堰堤(1050m)15:10--滝沢橋(930m)15:25

正月のニセコスキーハイク

'92.1.5&6 岩 毅 岩 淳子

1/5 吹雪 チセヌプリ 元旦からチセハウスに泊まって構えていたが、うちのかみさんがブッシュフルーにかかったりで、この日まで満身にスキーが出来なかった。

この日も天候は正月のニセコらしいものだった。薄日がさすときもあるが、ほとんど、雪が舞い、ときには、強風さえともなう。

チセヌプリへは、832mピークのリフト終点からスタートする。ここの風は北西である。このため南ないし南東斜面は風下となり新雪の海と化す。新雪だ、それはいい、と思うのは甘い。とてもじゃないが1月のニセコではラッセルと雪崩が怖くて入れない。このためルートはいったんチセヌプリとシャクナゲ岳の鞍部手前の夏道分岐までむかい、そこからチセヌプリ西面を登る。ほぼ夏道沿いである。多少ガスっても、地形がはっきりしており、また、下りも往路を滑るので注意深くしさえすれば迷うことは無い。

それでも、そこそこのラッセルはある。シャクナゲ岳がボーッとガスの中から浮かんだり消えたりする、正月の山スキーらしい。えてして春の晴れた日などないがしろにしてしまう高度計と磁石もここでは大事なお宝である。チセヌプリの西面は雪が飛ばされやや硬い斜面となっているが適度に這松が雪面にのぞいておりスキーアイゼンさえあればなんとかなる。山頂は残念ながらガスの中だった。

(タイム) リフト上(832m)11:00 ～～815m鞍部11:15—チセヌプリ山頂(1134.5m)12:40,
13:00 ～～ リフト上(832m)14:00 ～～チセヌプリスキー場下(545m)14:25

1/6 曇 | 雪 シャクナゲ岳 今日は昨日よりは多少ましな天気だった。昨日使ったルートでチセヌプリとシャクナゲ岳の夏道分岐まで行き、さらに夏道沿いに886mの鞍部に至る。今日はシャクナゲ岳がはっきり望める。鞍部からはややラッセルがきつくなるなか、ほぼまっすぐにシャクナゲ岳へ向かう。シャクナゲ岳北東の985mの台地から、ラッセルと雪崩を避ける為、シャクナゲ岳北面へ回り込むようにして山頂に達した。

今日は山頂から四囲の山々が望める。また、我々の他に、白樺山へ向かうパーティが一つ、白樺山方面からシャクナゲ岳を登るパーティが一ついた。

山頂から恐る恐る雪深い東面に入り滑り出す。雪は気温が高い為、上越なみの重い湿雪である。恐れていた雪崩もなく、アッという間に鞍部に着く。ここからは、往きのトレールをスケータリングでスキー場まで戻る。

両山とも小粒の山で3時間程のスキーハイクとなるが、厳冬期ならばそこそこ楽しめる。ニセコヒラフでゲレンデスキーのついでに遊びに来るスタイルが一番無駄が無いのかもしれない。

(タイム) リフト上(832m)10:40 ～～815m鞍部10:50—886m鞍部11:25—985m台地
11:50—シャクナゲ岳頂(1074m)12:10, 12:30～～ リフト上(832m)13:15 ～～チセヌプリスキー場下(545m)13:30